

私たちのお寺、長泉寺の会報誌。

# 峯みねのたより

新装刊  
026号

2023年12月15日発行  
(令和5年12月15日)

〒981-1505  
宮城県角田市角田字長泉寺69番地  
電話 0224(62)1004  
FAX 0224(63)0063  
<https://www.chousenji.jp/>

曹洞宗 長泉寺  
六国峯

びょうじょうしんこれどう  
にちにちこれこうにち

## 平常心是道 日日是好日

長泉寺住職 奥野成賢

「平常心是道」は「普段通りの（修行）を心がけて欲しいと思います。意味し、日常生活の中での自然な心の状態を重視します。

また、「日日是好日」は、毎日

が価値あるものであることを示し、未来が保証されていないため、現在の瞬間を大切にすることを教えます。

これらの教えは、普通の日々こそ真の幸せがあると、日常の平穩を見直し、その中に隠された幸せを見出すことを強調しています。普通が幸せであるという考えは、日々の生活で平常心を保ちながら、普通の瞬間に幸せを見出すことの重要性を示しています。

ですから、日々次のような所作

一、大きな声で挨拶しよう  
毎朝、大きな声での挨拶は、新しい日の始まりを祝福する行為です。

二、生活の一つ一つを大切に  
日常の小さな出来事も大切に、それぞれの瞬間を心から楽しみましょう。日々のルーティンも、意識を変えることで特別な体験に変わります。

三、みんなと積極的に話をしよう  
コミュニケーションは人間関係の基礎です。積極的に話をすることで、人とのつながりを深め、理解を促進します。平常心を保ちながら、心を開いて他者との対話を楽しみましょう。

四、沈黙の時間を大切にしよう  
話すことも大切ですが、沈黙の時間も同じくらい重要です。内省と静寂の時間を持つことで、自己理解を深め、心の平穩を保つことができます。沈黙は心をリセットし、新たな視点をもたらします。

五、食事を大切に  
食事は単なる栄養補給以上のものです。それは、自然とのつながり、家族や友人との共有の瞬間です。食事を通じて、感謝の心を育み、日々の生活を豊かにしましょう。毎食を心から味わい、その瞬間を大切にしましょう。

(これら五つの所作は曹洞宗宗務庁発行の「つといのしおり」から引用しています。)

### 年末年始の行事のご案内

## 12月22日(金) 午前10時～ 歳末助け合い托鉢

～角田市街地を歩きます～

12月22日(金) 午前10時より、「歳末助け合い托鉢」で角田市街地を巡行します。いただきました浄財は角田市と丸森町の社会福祉協議会支援窓口にお届けします。皆様方の温かいご支援をお待ちしています。  
**ご協力下さい!**

## 12月28日(木) 午前10時～ 除災招福祈禱会

皆様に幸先きよく新年をお迎えして頂くために、という願いを込めた祈禱会です。清々しい気分でお正月を迎えましょう。『お札』と『干支土鈴』をさしあげます。

**良運皆来!  
悪運退散!**



12月31日 (日) 午後 11 時～



# 大晦日 除夜の鐘

今年一年をふりかえり、幸福な新年を祈りましょう。

※今年の除夜の鐘は、山門そばの「鐘撞き堂」で行います。  
※ご参拝の方に「カップ麺」をさしあげます。(なくなり次第終了です。)



「今年の除夜の鐘は新しい「鐘撞き堂」で」



令和 6 年 1 月 3 日 (火) 午前 10 時～

# 新年大般若祈禱会

新年の万福多幸と家門繁栄を祈願します。  
どなたもご自由にご参拝下さい。  
『特別祈禱札』と『干支置物』をさしあげます。  
(ご祈禱料 2,000 円)



※今年の新年に開催された「新年大般若祈禱会」の様子です。

令和 6 年 1 月 13 日 (土) 午後 2 時～

# 厄払い・願いごと祈禱会

この春、「イ～予感がありますように！」との願いを込めて、  
1 月 13 日 (土) 午後 2 時から『厄払い・願いごと祈禱会』を開催します。

『お守り』と『イ～予感 (伊予柑)』をプレゼントします。  
良縁・結婚・合格、何でも OK! (お気持ち 1,000 円～)

※今年の様子です。







2月3日 (土) 午後3時から

せつぶんまめまきかい  
節分豆まき会



※写真は、コロナ以前のものです。

毎年恒例の節分会、今年も行います！  
どうぞご家族おそろいでおでかけ下さい。  
縁起物の『福豆』をおひろい下さい。  
たくさんの福菓子も用意してあります。  
(参加費無料)



- 耐寒坐禅会の日程は、後日あらためてお知らせします。
  - 新年4月より「お経を読む会」を再スタートする予定です。
- 男女年齢不問。どうぞお気軽にご参加下さい。無料。

※毎週日曜日、午後5時から定例坐禅会を実施しています。(会費はありません)



※令和2年の春から約3年間、私たちが悩ませてきた新型コロナウイルス感染症ですが、今年の5月8日をもって感染症の分類が2類から5類へと変更されました。この変更により、日常生活に対する制限は解除されましたが、ウイルスが完全に消滅したわけではありません。現在もインフルエンザなど他の感染症とともに新型コロナウイルスが流行している状況が続いています。

※長泉寺では引き続き最大限の感染症対策を行ってまいりますのでご協力をお願いいたします。

～長泉寺からのお知らせ～

年末年始、12月31日(日)(大晦日)より1月3日(水)まで  
ご葬儀をお休みします。

「本堂」「みねの里」利用のすすめ

長泉寺の本堂は、東北でも最大級の広さを有し、正面及び両脇は庭園になっております。葬儀式本来の様式に則った葬祭も安心して施行することが出来ます。

尚、少人数（30名程度）の法要やご葬儀の場合は「みねの里」の利用をおすすめします。

一般の葬儀場よりはるかに厳粛でリーズナブルです。お悔やみのお心を長く霊前にとどめ出来るよう供花は胡蝶蘭の鉢物をおすすめしております。



長泉寺本堂を正面より望む



長泉寺本堂・座席の距離を密にならないように！



広々とした大書院



こども食堂も開催されています



少人数の場合にはみねの里多目的ホールの利用をお勧め致します



長泉寺本堂・みねの里多目的ホール使用（謝礼）表

用途	法要のみ	葬儀のみ	通夜・葬儀・法要	その他の活動
使用料（謝礼）	0円	0円	30,000円 (会食が伴う場合)	とくになし
会食が伴う場合	10,000円	10,000円		

※この他、祭壇使用料はゼロ。葬祭会館よりはるかにリーズナブルです。

～長泉寺からのお知らせ～

年末年始、12月31日（日）（大晦日）より1月3日（水）まで  
ご葬儀をお休みします。



# お知らせ



## ■長泉寺からのお知らせ①

凍結防止のため、長泉寺墓地の水道を12月25日より3月10日まで止水します。

なお、天候により期間を変更する場合があります。

## ■長泉寺からのお知らせ②

墓参用の『桶』と『ひしゃく』を設置しておりますが、『ひしゃく』の数が減少していることが確認されています。ご使用後は必ず元の場所へ戻していただくよう、ご協力をお願いいたします。『ひしゃく』の数が減少した場合は、春の彼岸に際して補充する予定です。



※中央墓道路路側。

## ■長泉寺からのお願い①

① お菓子や果物、飲み物等食べ物をお供えしたまま放置しない（鳥獣等からの被害防止のため）

② 枯れた花や草、その他のゴミは必ずお持ち帰り下さい。墓地ご近所さまどうし仲良くして下さい。

## ■長泉寺からのお願い②

古くなつた卒塔婆、位牌のお焚上げ用力ゴを設置しております。

このカゴは読経してお焚上げする物品のための聖なるカゴです。ゴミ箱ではありません！その他のゴミは入れないで下さい。



※場所は、北側入り口側にあります。

**ゴミを捨てないで下さい**  
墓地には御霊が眠っています  
長泉寺

峯のたより  
第26号発行のご挨拶

長泉寺住職

奥野 成賢

今年、新型コロナウイルス感染症の対応に関して大きな変化がありました。5月8日以降、感染症の分類が2類から5類に変更され、これにより日常生活に対する制限が解除されました。また、記録的な猛暑が襲った厳しい環境の中、多くの困難に直面した一年でした。

しかし、お檀家の皆様の温かいご支援のおかげで、私たちの大切な菩提寺である「長泉寺」を守り続けることができました。住職として、心から御礼を申し上げます。

新年に向けても、引き続き一層皆様のご指導とご協力を賜りますようお願い申し上げます。皆様にとって健康で平和な新年が訪れますことを心より祈っております。

### 一代守り本尊

○子年生の人	千手観音菩薩
○丑年生の人	虚空蔵菩薩
○寅年生の人	虚空蔵菩薩
○卯年生の人	文珠菩薩
○辰年生の人	普賢菩薩
○巳年生の人	普賢菩薩
○午年生の人	勢至菩薩
○未年生の人	大日如来
○申年生の人	大日如来
○酉年生の人	不動明王
○戌年生の人	八幡大菩薩
○亥年生の人	八幡大菩薩

### 年回表 (2024年)

一周忌	令和5年 (2023年)
三回忌	令和4年 (2022年)
七回忌	平成30年 (2018年)
十三回忌	平成24年 (2012年)
十七回忌	平成20年 (2008年)
二十三回忌	平成14年 (2002年)
二十七回忌	平成10年 (1998年)
三十三回忌	平成4年 (1992年)
三十七回忌	昭和63年 (1988年)
五十回忌	昭和50年 (1975年)
百回忌	大正14年 (1925年)